親鯉候補養成事業

八木久則・目片徳治

I　事業の目的

鯉苗生産にはその基となる優良な採卵用親鯉の確保が特に必要である。そこで次代の親鯉を逐次養成補給する為本年度より構内既設の大型養成池（旧1号池）を活用し，本事業を実施した。

II　事業実施期間

昭和34年5月以降，継続実施

III　養　成　池

構内旧1号池，面積　11,550㎡

IV　事業経過及び成績

1. 種苗の放養

候補鯉の種苗は毎年当事業場において生産される放流用鯉苗中より形質純良なるものを選別し，これに当て爾後，選別淘汰を繰返して親鯉の養成を計る計画であるが，本年当初の才1回放養種苗は当場の生産鯉苗がないので県内業者より優良種苗を購入し放養した。

事業初年度の生産目標量は総生産量で1,500Kgとし，その内1割150Kgを候補鯉として確保することとして事業を進めた。

表 (1) 種苗放養状況

養成池	面積	放養量		平均体重	放養月日
		数量	尾数		
溝内旧1号池	11.550m²	192Kg	4.630尾	41.3g	昭和34年 5.2～5.17

2. 養成経過及び結果

上記放養魚は6月下旬より給餌を開始し，途中経過は順調であったが，8月中旬台風7号の豪雨により琵琶湖水位が急上昇し養魚池近接の松原内湖より浸水，氾濫した為飼育魚の大部分が逃逸した。

11月下旬，取揚げたところ取揚量，鯉92Kgで当初の生産目標量の約7%に過ぎなかった。取揚魚92Kgの内，候補魚として適合したものは雌雄合せて11Kg（22尾）程度で，これは継続再放養を行い，残りは淘汰魚として払下げた。尚，今後の被害予防対策として次年度，池周囲に金網垣設置を考慮している。

期間中の給餌量は合計1.060Kg（蚕蛹53%麦類32%，フード15%）で8月の台風後は残魚量を勘案して投餌を減量し，10月中旬まで給餌した。

3. 次年度候補鯉養成種苗の放養について

新増殖場において本年初めて生産された放流用鯉苗中より，形質純良なものを選別し，12月上旬次年度候補鯉の養成用種苗として放養した。

又，別に親鯉の中から台風被害をうけ損傷あるいは衰弱したものを選別し，併せて収容し養成を計った。尚，本養魚池は従来より夏期，水草類の繁茂が著るしく，ために飼育魚の成育にも悪影響を及ぼすので，これが駆除のため水草類を好餌とする草魚を購入し混養した。

表 (2) 次年度候補鯉養成種苗の放養状況

養成池	面積	放養魚	放養月日	放養量		平均重量	備考
				数量	尾数		
旧1号池	11.550m²	鯉苗	12/8～12/9	456.0Kg	15.100尾	31g	生産放流鯉苗中より選別
〃	〃	親鯉	〃	399.0	332	1,200	損傷，病魚親鯉中より選別
〃	〃	草魚	〃	4.4	627	7	埼玉水試より購入

上記放養魚は現在，冬期休餌中で4月上旬頃より給餌を開始する。